

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492400021	事業の開始年月日	平成18年9月1日	
		指定年月日	平成18年9月1日	
法人名	株式会社 へいあん			
事業所名	グループホーム「へいあん小和田」			
所在地	(〒253-0012) 神奈川県茅ヶ崎市小和田3丁目3番25号			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成22年1月8日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所が特に力を入れていることは、利用者にとって、施設ではなく、「自分の家」で暮らしていると感じてもらえるように支援することです。認知症の方が、生活していく中で「安心感」は非常に大切な要素であり、その安心感を持って、その人らしく生活していくには「自分の家」は不可欠と考えるからです。利用者が毎日に不安を抱くことなく、その人らしく自由で平穏な暮らしを送るためにはどうすれば良いか考え、実践しています。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成22年1月29日	評価機関 評価決定日	平成22年4月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、東海道線辻堂駅から徒歩10分程で国道沿いの住宅地に位置している。2階が事業所で1階に同一法人のデイサービスを併設している。法人の機能を活用し、このデイサービスの催しの際に利用者が訪問するなどでも、地域の方と交流している。</p> <p>【理念の実践】 事業所は、落ち着いた穏やかな雰囲気である。利用者が階下の花壇に水遣りをする時には、自分の家で自由に過ごしているように感じてもらえるよう、職員がすぐに後追いするようなことはしないで、警備システムのモニターを利用して見守るなどしている。食事や入浴の時間は概ね決められているが、調査訪問時は自室で昼食を摂り下膳して食器を洗ったり、居間で購読している新聞を広げる利用者の姿が見られ、利用者がそれぞれのペースで過ごしていた。「一人ひとりの個性を尊重し、今お持ちの力を十分発揮できるよう、お手伝いします」などの理念をサービスへ反映するよう努めている。</p> <p>【市町村との連携】 2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、市の職員に出席してもらったり、管理者が市主催のグループホーム意見交換会に参加するなど協力関係を築いている。また、介護相談員を受け入れ、月に1～2回の頻度で2名が訪れている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム「へいあん 小和田」
ユニット名	ユニット1

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示し、毎朝の申し送り時に法人の理念と共に唱和している。	「お客様に尊敬の念をもって接します」を基に3細目を掲げた独自の理念がある。理念を申し送り時に唱和したり、スタッフルームに掲示して共有し、サービスへの反映に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者1人1人が自治会に加入しており、地域のイベントや祭りなどにも参加している。	利用者全員が自治会に加入し、地域の餅つきや盆踊りなどに参加している。梨狩りに行った際などに近所へおすそ分けしたり、傾聴ボランティアが来訪するなど地域の方と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に実施していないが、今後、地域包括支援センターと協力して、認知症サポーター百万人キャラバンの実施などを検討中である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を実施し、様々な立場からの意見をサービスに活かしている。	利用者と家族、地域包括支援センターや市の職員、自治会長や民生委員等が参加し2ヶ月に1度開催している。自己評価の報告の際には、馴染みの人の関係が困難であれば「新しい友人を作ったらどうか」等、参加者からの意見を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1度の待機者数、入居状況の報告をしており、その際に質問等あればしている。また、運営推進会議にも出席していただいている。	運営推進会議に市の職員に出席してもらったり、管理者が市主催のグループホーム意見交換会に参加して協力関係を築いている。月に1~2回の頻度で介護相談員2名を受け入れている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に開放しており、利用者が自由に入出りできる。身体拘束についても年に1度の虐待防止の研修を行っている。	建物の主玄関は、法人事務所からモニターで見守っている。事業所の玄関にはチャイムを付け、日中は施錠していない。居室は内から施開錠できる。入職時や虐待防止についての内部研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度、虐待防止についての研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書を元に説明し、その都度質問を受けている。改定の際は、家族会にて説明、質問の場を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営についてのアンケートを取ったり、訪問時に要望などを聞き取っている。職員も家族の意見を常に真摯に耳を傾けている。	来訪時や電話、家族会等で家族の意見を聞いている。シャワー浴を希望している利用者の家族からの「たまには入浴させてほしい」との意見を受け、現在検討中である。重要事項説明書に苦情・相談受付窓口を明記し、契約時に説明をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケートや面談などで意見を聞いている。また、随時職員が意見や提案できるよう聞き取りを行っている。	月1回、全員参加のミーティングや個人面談などで職員の意見を聞いている。計画作成時に「記録からケア内容が拾いにくい」という意見を受けて書式を改善するなどしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員ごとに、能力、日頃の勤務状況を加味し昇給、昇格を行っている。また、体調なども考慮してシフト組みを行うなどしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画があり、各職員が交代で外部研修に行っている。また、法人内の研修も随時行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホームを職員と一緒に見学などを行っている。今後は相互研修なども行っていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントにて、不安を取り除くよう努めている。また、可能な方は直接来訪していただき、ホームの様子を事前に見ていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	待機の段階から定期的に連絡を取り、不安や要望などを聞き取っている。また、入居時のアセスメントの際に、家族にも聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	待機の段階から定期的に連絡を取り、その時点の状態を把握し、他サービスの紹介や他事業所の空き情報の提供などを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事の中で、利用者それぞれが自分にあった役割があり、行っている。また、職員はさりげなく手助けできるよう努めている。職員と利用者が支えあう関係ができてきている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化などを随時報告し、利用者の希望に合わせて来訪したり電話で話したりしていただいている。来訪時には情報交換したり、利用者本人について話し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所は近くをドライブなどした際に声をかけをしたり、立ち寄ったりしている。ただ、馴染みの人との関係は、親族を除いて徐々に減ってきている。	海などのなじみの場所へ立ち寄っている。利用者を訪れる馴染みの方が数人いる。アセスメントのほか、利用者の会話で聞きなれない人の話があった場合には家族に聞き、馴染みの関係の把握やその後の会話に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	複数の利用者に1つの仕事を共同でしていただいたり、助け合いながらできるよう援助している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もどういった状態か常に気をつけ、電話にて確認したり、ご家族などにも気軽に相談していただけるよう声をかけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	様々な事例で本人の希望や意向を聞き、出来る限る希望に添えるよう心がけている。	アセスメント、日々の言葉や表情、家族からの話などから利用者の意向を把握している。利用者の発した言葉どおりに記録を残し、利用者の習慣や思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて利用者や家族から入所前の生活歴や生活環境を聞き取り、全職員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を見つめながら、変化をいち早く察知するよう気配りをし、現状に合わせた援助になるようミーティング時にケースカンファレンスを行い、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族に希望を聞き、また、各職員の意見やアイデアを反映したケアプランを作成している。	3ヶ月に1度モニタリングを行っている。状態の安定している場合は6ヶ月に1度、状態の変化が見られた際は随時見直し、計画を策定している。家族の要望は電話などで聞いている。職員を担当者制にして、利用者の日々の様子を把握し、その記録や職員の意見を介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を職員が個別記録に記入し、計画作成担当者がまとめて、ケアプラン作成に活かしている。また、月に1度担当のスタッフよりその月の様子などの報告をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1階にあるデイサービスの施設を利用し、イベントやレクリエーションに取り組んでいる。また、自費でのヘルパーの利用実績もある。デイサービスの利用なども対応可能である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんにイベント時に来ていただいたり、傾聴ボランティアの利用実績もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診、週1回の歯科往診がある。また、別のかかりつけ医がいる場合も、その医師と連携をはかっている。	家族の意向で利用者全員が協力医療機関を受診している。契約時に緊急時を除き利用者のかかりつけ医の受診は、家族が付き添う事を伝えている。循環器のかかりつけ医への受診は、家族が付き添い職員が送迎を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に関わりは少ないが、主治医の所の看護師との情報交換や、1階デイサービスの看護師に相談したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、病院への情報提供を行い、退院後も混乱なく暮らせるよう入院先のカンファレンスなどに出席している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の危険性がある場合、早い段階から重度化した際の対応などについて医師の指示を仰ぎ、家族と話し合っている。	法人はターミナルケアを行う方針だが、当事業所はまだ態勢が整っていない。運営規程の「常時医療機関において治療をする必要がないこと」を共通認識としており、現時点で看取りは行わないことを全職員が共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	CPR研修の受講実績があるが、全職員ではない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。	災害に備え食料等を3日分備蓄している。夜間想定などの自主防災訓練を年1～2回実施している。交番へは入居者リストを渡し、近所へは世間話の中で協力してもらえるよう伝えている。	新型インフルエンザ流行のため中止になった地域の防災訓練へ次回は参加するなど、さらなる地域との協力体制の構築に努めることが期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取扱には十分注意し、利用者一人ひとりの誇りや尊厳を損ねないように配慮している。	プライバシーの保護や個人情報の取り扱いについては採用時に研修している。トイレ誘導の言葉かけなどを職員に周知しており、訪問時にプライバシーを損ねるような言葉遣いは見受けられなかった。入浴時は同性介助の対応をしている。個人記録等は施錠し管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	納得されるまで何度も説明したり、選択肢を提示して、ご本人の希望がひきだせるようなケアを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間などを定めず、特にその日の日課も定めていない。本人の自由な生活を援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理美容の利用で好きな髪形にさせていただいたり、化粧をしていただいたり、好きな洋服を一緒に買い物に行ったりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みが反映されたメニュー作りをし、個別対応もしている。また、調理、配膳、片付けなど出来る方には一緒に参加していただいている。	職員は、利用者と一緒と同じ食事をしている。利用者の力に応じ、食器洗いや下膳等を行っている。とろみ食は味が薄くなりやすいので調整している。寿司などの出前や外食等で食事が楽しめるようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録しており、嗜好などであまり食べられない方には他の物をお出しするなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ、全介助、一部介助など、その方の状態に合わせて実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表をつけており、その方の排泄パターンを把握し、定時誘導や声かけをしている。失敗時もさりげなく片付けをするようにして尊厳を保てるよう支援している	排泄のパターンを把握し、失禁が少なくなった利用者は、布パンツとパッドへ移行し、自立に向けた支援をしている。トイレ誘導をスムーズに行えるよう「お薬を塗りましょう」など言葉掛けの工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と連携しながら薬の調整を行い、牛乳やヨーグルトをメニューに入れるなどしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日全員の入浴は難しいが、ローテーションで1日3～4名ずつ入浴している。希望などに合わせて時間は関係なくシャワー浴の実施は対応している。	毎日風呂を沸かし利用者の希望をききながら、週2～3回のペースで入浴の支援をしている。シャワー浴はいつでも可能である。入浴を好まない利用者には「体重を量りましょう」と脱衣所に誘い入浴につなげる等、言葉掛けの工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも傾眠時には、夜間の睡眠に影響が出ないように声かけし、昼寝などを促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬表やファイルを作成しており、全職員がいつでも見ることができる。また、副作用などを含めた薬の知識についてミーティングなどで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの嗜好品や楽しみ事などにも対応している。現在は、紅茶やお菓子を希望されている方にも個別に対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日、散歩や買い物など外出の機会がある。玄関も施錠しておらず、自由に外出できる。また、建物周辺であれば、モニターで見られているので、1人で外にいることもできる。	外出したがる利用者にも声をかけ、日常的に散歩や買物に出かけている。車椅子の利用者も同様に戸外に出かけている。洋服の購入など、個別の外出支援をしている。季節の花見や外食等にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方には、財布とお金を持っていただいている。また、買い物の会計時に財布をお渡しして支払いをしていただくこともある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった際や、不穏時などに電話してお話していただいている。また、過去には携帯電話の持ち込みをしていた利用者もあり、対応可能である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やリビングに季節感のある飾りつけをしており、イベントの写真を貼り出している。採光が良く、日中はとても明るい。	居間は明るく加湿器が置かれていた。IHクッキングヒーターのある台所や浴室等は一般家庭同様である。エレベーターや車椅子対応のトイレ・洗面台を整えている。居間や食卓に生花などを飾り季節感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席も気の合う利用者同士隣や同じテーブルになるよう配慮している。また、ソファでくつろいでいる姿も良く見られる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にも、使い慣れた家具などを持ってきていただくよう説明しており、居室に冷蔵庫やテレビ、仏壇を置いている方もいる。	事業所の備品はクーラーとクローゼットのみで、居室の雰囲気は様々である。照明器具やカーテンなどが利用者の好みで取り付けられ、椅子、整理ダンス、家族の写真、ぬいぐるみ等が持ち込まれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーで作られており、安全に配慮している。また廊下や壁のほとんどの部分に手すりが設置されている。		